

単元構想のリフレクション	
単元を通じた構想の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・為替手形の取引を苦手とする生徒が多いが、この単元での実践を通して、正確に手形記入帳に記帳する力を育成することができた。 ・既習内容である小切手の取引を再確認してから手形の学習をさせたことで、小切手と手形との違いを明確に理解させることができた。
主体的な学びを実現する手だての有効性の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・手形の不渡りについて調べさせ、手形記入帳の必要性を理解させた上で実践を行ったため、単元全体を通して意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・債権や債務といった基本的な用語の意味が定着しておらず、初期の段階で確実に定着させておく必要性を感じた。 ・発展学習として小切手と手形が混在した問題に取り組ませたが、それぞれの意義を理解して意欲的に取り組むことができていた。
対話的な学びを実現する手だての有効性の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習で既習内容である小切手についてインターネットを利用して調べ学習をした上で発表をさせたことで、対話的な学びにつながった。 ・手形についてまとめた動画を視聴した上で、小切手と手形の違いについてグループで調べワークシートに記入させる活動を設定したことで対話的な学びにつながった。 ・債権・債務カードを用いて、どのような債権や債務が振出人、受取人、名あて人の三者に発生しているのかをグループで考えさせることで、対話的な学びにつながった。
深い学びを実現する手だての有効性の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・小切手と手形のどちらを振り出して商品代金を決済するかを考えさせるための教材が不十分であったため、深い学びにはつながらなかった。教材の開発が必要であると感じた。 ・手形の裏書きや割引きが社会においてどのように行われているかまでは調べさせることができず、深い学びには繋がらなかった。もう少し時間を多めに設定する必要があると感じた。

抽出生徒の変容		
生徒	実践前の様子	単元終了時の様子
A	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に取り組む生徒だが、問題文を読んだ後に深く考えることなく安易に解答をしてしまうことがあり、誤答となることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・為替手形が振り出せる条件をじっくりと考察し、決済方法が当座預金であることを正確に理解できていた。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・おとなしく真面目であるが、日頃の授業では他の生徒と対話することはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践中に他の生徒と対話しながら考え整理している様子が見られた。事後アンケートで「グループで協力する難しさについて学んだ。作業の効率的な分担、意見をまとめる作業などバラバラのものを一つにまとめることは難しいですが、大切だと思った」と記述していた。

実践を通しての課題
<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の理解度を把握した上で、教材の作成や主体的で対話的で深い学びを行う単元や時限の設定をしなければ思うような結果を得ることは難しい。 ・主体的な学びについては、学習内容が社会のどの場面で必要とされているかを理解させることが大切である。 ・既習内容が定着していなければ、深い学びにはつながらないため、振り返りをしてから実践を行う必要がある。 ・対話的な学びについては、生徒個々の性格に頼るところが大きく、想定どおりにならないことも考えられる。他教科を含め学校全体で日頃から対話的な学びの場面を設定していく必要がある。